

「高校時代の黒歴史」

毎日楽しげに高校へ通う娘が微笑ましくも、どこか羨ましく思える高野です。というのも自分の暗黒の高校時代と比べるからでしょうか。

私は高校入学して数日後、隣の席のA君とちょっとした話の食い違いがおきます。その後、またたく間にクラスの人気者になったA君から村八分にされたのです。

何が理由なのか、さっぱりわからないまま、誰からも相手にされない毎日。

授業でボーっとしていると先生に当てられ、「続きを読むように」と命じられてもどこかわらず、回りに視線で助けを求めても誰も助けてくれず、授業が終わるまで立たされたこともありました。

身体的なイジメは無かったものの靴を隠されたりとか、陰湿ないじめが続きました。またある時、ズボンの腿がチョークの粉で白く汚れていました。どこで汚したのか見当つかず、机（天板）の裏を触てみると、チョークで白く塗られたくってありました。誰もいなくなった教室で机を逆さにすると「死ね」と赤い文字。

そんな訳で全く良い思い出の無かった高校生活前半。ところが2年の冬あたりから風向きが変わるのです。気づくといつも大勢の友達に囲まれていたA君は一人孤独で登下校するように。その頃から周りの態度が軟化してくるのを感じていました。

その理由が分かったのは3年になって、初めて友達（T君）が出来たことでした。彼から偶然、A君の話を聞いたのです。

「噂やけど、A君は少しでも自分の気に食わないことがあると友達を粗末にしよったらしいね。それで或る晩、みんなから袋叩きにされたらしい。」

それを聞いてから不思議とA君に対する恨みが消えていきました。むしろ私のことを知ろうともせずA君の指示に流されたその他大勢の集団心理に嫌悪感を覚えました。

一方、T君は、誰にも話しかけることが出来なくなっていた私に、まるで転校生を見るかのように話しかけてくれたのです。どこに住んどると？出身中学は？好きな音楽は？って。私のことを噂で評価せず、素直に興味関心を持ってくれたことが、とても嬉しかったものです。友達一人で、こうも学校生活って変わるものかと思い知りました。

この体験以降、環境が新しくなる時、自分が会合の幹事だったりする時は、T君のように相手に関心をもって話しかけることを心がけています。すると徐々に、環境の変化が苦ではなくなっていきました。

毎日元気に登校する娘を見て、忘れかけていた黒歴史を思い出し、人間関係構築のコツを学ばせてもらったT君に改めて感謝しているところです。